OMM JAPAN 2019 イベントディレクターレポート

はじめに、今回の開催地である長野県をはじめ東海・関東甲信・東北地方に多くの甚大な被害をもたらした台風19号により被災された全国の方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧を強く願っております。
またこの台風によって私達が愛する多くの山々、アウトドアフィールドにも甚大な被害が及び回復の目処も立たないエリアが数多くあることに胸を痛めるとともに、今年も1300人ものイベント参加者の壮大なチャレンジを可能にしてくれたこの日本の豊かな大自然に心からの敬意を払い、微力ながら一刻も早い回復のためにOMM JAPANとしてできる限りの支援を模索していきたいと思います。

評価・課題・反省

１．開催地

壮大な2日間の旅の最後にフィニッシュへと向かう霧ヶ峰高原からの大絶景はおそらく多くの参加者の皆さんにとって素晴らしい思い出となったのではないでしょうか？
今年の開催地であった長野県茅野市、諏訪市、下諏訪町にまたがる車山、霧ヶ峰高原とその周辺のすそ野山域をOMM JAPANの開催地として検討を始めたのは2016年頃でした。
2016年当時はその前の年に開催され運営の安全管理やリスク管理を大きく考え直すきっかけとなった群馬県嬬恋村での大会の直後ということもあり、運営チームとしては当時のOMM JAPAN参加者の平均的な山岳地におけるリスクマネジメント能力やこのイベントに対する理解度を考慮しながら、標高は1500m前後、また悪天候になっても著しい状況悪化のリスクが比較的に少ないエリアを中心に開催地を選定していた時期でした。
　このような理由からOMMイベントにとって魅力的なエリアであると着目はしていたものの暫くの期間を候補地として見送ってきたこの車山、霧ヶ峰高原エリアでの開催を本格的に進め始めたのが２０１８年夏頃でした。その後、競技チームによる現地の地形、植生の確認、安全管理チームの了承を経て今年OMM JAPANを開催決定へと至ります。
　そして今日、２０１６年当時では決して開催することの出来なかったこの場所で約１３００人ものOMM参加者が集まり、大きな事故や怪我もなく全員が無事に２日間のフィニッシュに帰ってこれたことを心からうれしく思います。
　来年以降も参加者の皆さんが求める「山の総合力を試す場 OMM JAPAN」を運営チーム一同、全力で作り上げていきたいと思います。

2. コース

コースについての反省、課題の詳しくはコースプランナー小泉のレポートを御覧ください。

今年は車山・霧ヶ峰の高原域を中心とした国定公園や、裾野域に広がる財産区、保護区、国有林など多くの指定管轄エリアを一つ一つ許可をとって準備を進めてきました。

これらコースにおいてのすべての使用申請・許可をこのわずかなイベント準備期間でクリアすることは計り知れない苦労と努力の結晶に他なりません。今年もいくつかの深刻な状況を乗り越えて無事に開催することができました。
今年に限らずOMMというイベント開催において要ともなるこの重責を担うOMM JAPAN渉外担当の EXTREMO 我部氏に心からの感謝を送ります。
また今年の渉外活動において発生した問題やそれらを乗り越えた経験から、来年以降はより円滑に渉外活動が進むようにコースプランナーとの連携を見直していきたいと思います。

3. イベントセンター

・今年もイベントセンターは、ファシリティの整ったスキー場施設に協力を頂き、一体感のあるイベント会場の雰囲気、駐車場から受付、会場までの導線をスムーズに作リこむことができました。毎年このような条件の整った会場の確保は難しくもありますが、どのような条件であっても毎年OMM JAPAN に来られた参加者のみなさんが、OMM独特の雰囲気と一体感を感じられる会場づくりを目指して行きたいと思います。

・今年は天気の良かったDAY2のFINISH後の物販、メーカー出店会場を屋内から屋外へと完全に移したことでフィニッシュ直後の参加者の盛り上がりをそのままに感じられる良い会場運営が出来たと思います。会場を移すことは今回はじめての試みではありましたが、スタッフ、ボランティアの協力で非常にスムーズに作業を行うことができました。改めて運営チーム全スタッフ・ボランティア、ご協力頂いた関係者の皆様に感謝いたします。

・昨年の反省から金曜日の前夜祭の雰囲気づくりについて見直しと検討を図りました。具体的には飲食提供、音楽の充実、ショップ、協賛メーカーブースの配置、等でしたがとくにOMM BARを始め昨年よりも会場の一体感と雰囲気を楽しんでいただける参加者の皆さんを多く目にするこができました。ただ飲食提供については毎年開催地が変わるといったこのイベント特異性と、あくまでも飲食提供を主として行事ではないという理由で保健所への申請が難しく非常に限られた条件での提供となりました。
来年以降はこの反省を踏まえ、さらにOMM前日祭が盛り上がるように様々な取り組みを検討します。最後にこの飲食提供はじめ前夜祭の雰囲気作りにご協力頂いた関係者・メーカーの皆様に心から感謝いたします。

・昨年、車で来場した際に駐車場サインがもっと大きいほうが見やすいという意見がありましたので今年はその反省を踏まえて大きなサインを作り設置しました。また今年は駐車誘導員の配置もしませんでしたが大きなトラブルや分かりにくいという声もなかったので、サインの効果を感じています。

・昨年は金曜日前泊用のキャンプエリアの用意が出来なかった反省から、今年は早めに会場にもキャンプ可否の確認をし場所も確定しました。また事前の告知もしていたので例年よりも多くの参加者がこの前泊用キャンプサイトを使用してくれていました。来年以降も早めの確認と告知を行っていきたいと思います。

4. オーバーナイトキャンプ

・今年は開放的で雰囲気の良い霧ヶ峰キャンプ場を全面的に貸し切り、オーバーナイトキャンプサイトを作り込みました。大きな一面のキャンプサイトでなく、サイトがいくつかに分散するレイアウトでしたが、事前に導線マップを各所に設置したことで参加者にとっては大きな混乱も見られませんでした。

・一時、場内の水道が濁って出るといったアクシデントがありましたが、スタッフの素早い注意喚起と対応、参加者の皆さんのご理解によって混乱も起きず、その後水も通常通りに回復しことなきを得ることができました。

5. マーシャル・スタッフ・ボランティア

・今年から競技スタート・フィニッシュチームが兼任していた、スタート・フィニッシュ地点やキャンプサイトなどのレイアウト、導線、バナー、フラッグなどの設営作業について、新たに「設営チーム」という競技チームとは別の設営専門のチームを作りました。
課題は競技チームとの連携が上手くいくかという点でしたが、事前の準備やチーム間の確認によって一定の良い結果が見られました。
一方で「競技チーム」と役割を分けたことで、休憩時間や休憩場所、休憩時間の過ごし方など、「設営チーム」に入ってもらったスタッフ・ボランティアの皆にとっては孤立を感じるような場面がありました。この点については非常に申し訳なく思うとともに必ず来年は改善し、OMM JAPAN運営チームとして関わるスタッフ・ボランティア全員が一丸となってイベント成功に向けて頑張れる雰囲気を作っていきたいと思います。

・イベント運営期間中のスタッフ・ボランティアの食事についていくつかの反省点と改善点が見られました。来年の課題としたいと思います。

THANK YOU FOR ALL

OMM JAPAN 2018をともに作り上げてくれた仲間に感謝を贈ります。

TEAM OMM JAPAN
Communications Director　Jeff Jensen
渉外 我部乱（有限会社エクストレモ）
Event HeadQuarter 細谷かこ
Technical Director 田島利佳（公益社団法人日本オリエンテーリング協会）
Course Planner 小泉成行（公益社団法人日本オリエンテーリング協会）

計測・リザルト　福西佑紀（公益社団法人日本オリエンテーリング協会）
スタート・フィニッシュ 田畑 清士、杉本 光正(公益社団法人日本オリエンテーリング協会)
設営 中川顕彦
安全管理マネージャー 村越真（NPO 法人 M-nop）、宮内佐季子
スタッフ・ボランティアとして参加してくれた皆様

長野県茅野市、諏訪市の皆様
車山高原観光協会の皆様
信州綜合開発観光株式会社スタッフの皆様
ロッジくるま スタッフの皆様

ALL Competitors
OMM JAPAN 2018に参加してくれたすべてのコンペティターの皆様

OMM JAPAN EventDirector
小峯秀行